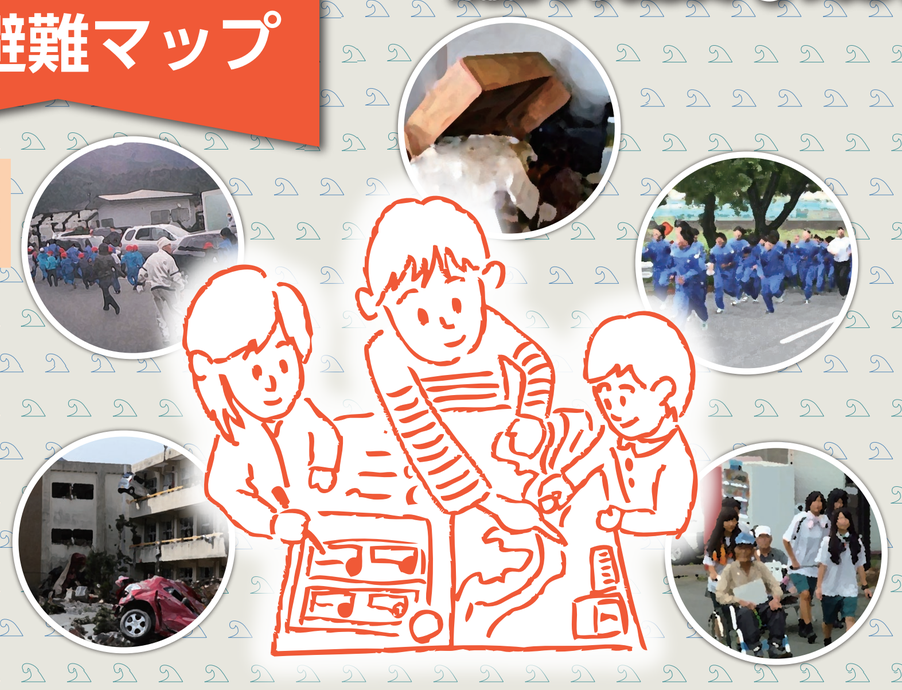
YOKKAICHI CITY TSUNAMI HINAN MAP

四日市市 津波避難マップ

平成29年12月 一部改訂版

あなた、家族、地域の命を津波から守るための 5つのポイント



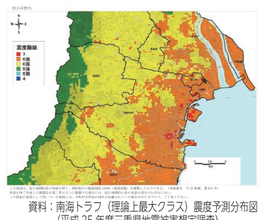
今、四日市市で大きな地震が起こったら・・・

どうなる？

南海トラフ地震 では、

※理論上最大クラス

最大で 震度7 が想定されている



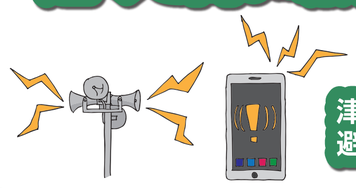
資料：南海トラフ（理論上最大クラス）震度予測分布図（平成25年度三重県地震被害想定調査）

最大で 5m の津波が襲う

どうする？

地震が起こる前に耐震化・家具の固定

遠くて高い場所に避難する



津波情報が出ている間は避難を続ける

四日市市には、どんな津波が襲ってくるんだろう？
命を守るためには、どうしたらいいんだろう？

5つのポイントから考えてみましょう

発　行　四日市市　　企画・編集　四日市市危機管理室、（株）アイ・ディー・エー社会技術研究所
監　修　片田敏孝（群馬大学大学院教授）、群馬大学広域首都圏防災研究センター災害社会工学研究室

平成27年3月発行
平成29年12月一部改訂

問い合わせ先　四日市市危機管理室
TEL ： 059-354-8119
FAX ： 059-350-3022

本書に掲載した地図の一部は、三重県市町総合事務組合の管理者の承認を得て、同組合所管の「2011 三重県共有デジタル地図（数値地形図 10000）」を使用し、調整したものである。（承認番号：三総合地第 163 号）

津波から命を守るために

まずは 遠くて高い場所へ避難

遠くに避難できない場合は 最寄りの津波避難ビルや高い建物へ避難

ポイント 3 で確認
震度7が想定されている
耐震化や家具の補強など、できることから備えておきましょう。
裏面へ

ポイント 1 で確認
想定はあくまでも1つの例
ハザードマップは、安全を保障する地図ではありません。
下へ

ポイント 2 で確認
最善をつくす
命を守るために最善をつくすことが重要です。
裏面の到達時間マップへ

ポイント 5 で確認
避難することを習慣に
何度空振りでも、避難することを習慣としましょう。
裏面へ

ポイント 4 で確認
率先して声かけ、避難
あなたが率先して避難することで、周辺のひとも助けることができます。
裏面へ

注意！ 津波情報が出ているあいだは避難を続ける

注意！ 小さい津波でも大きな破壊力 第一波が最大とは限らない

注意！ 津波は繰り返しやってくる

ポイント 1 想定を知る

想定はあくまでも 1 つの例

ハザードマップは、安全を保証する地図ではありません。想定はシナリオのひとつであり、想定どおりの津波が来るとは限らないことを理解することが、命を守る第一歩です。

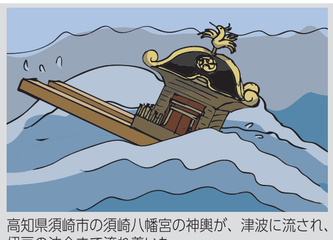
南海トラフ地震は定期的に発生します。
四日市市では過去にも、 津波と地震に何度も襲われました。

宝永地震（1707 年）

1707 年（宝永 4 年）10 月、マグニチュード 8.6 規模の巨大地震が遠州灘から四国までの沖合を震源として発生しました。地震の規模は我が国最大級で、死者は 5 千人以上、全壊家屋 5 万軒以上で、壊れた堤防の合計長は 800km にも及びました。

四日市地域では、津波により海岸堤防が破壊され、家屋倒壊 152 軒、大破損 524 軒の被害が記録されています。

出典：四日市市史



高知県須崎市の須崎八幡宮の神輿が、津波に流され、伊豆の沖合まで流れ着いた

147 年後

安政東海地震（1854 年）

1854 年（安政元年）12 月、熊野沖から遠州沖、駿河湾内に至る広い海域を震源とするマグニチュード 8.4 の地震が発生しました。また、翌日には紀伊水道から四国にかけての南方海域を震源とする安政南海地震も発生し、死者数千名、倒壊家屋 3 万軒以上という被害をもたらしました。

四日市地域では、全壊 11 軒、半壊 145 軒の被害が記録されています。

出典：四日市市史

安政南海地震では、広村（現和歌山県広川町）の浜口梧陵が村民に津波の危険を知らせた「稲むらの火」の逸話が有名

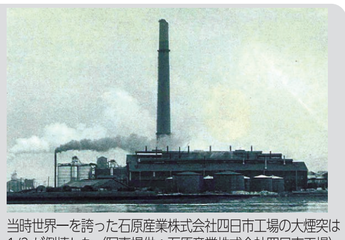
90 年後

昭和東南海地震（1944 年）

1944 年（昭和 19 年）12 月、マグニチュード 7.9 の地震が発生し、大きな津波が熊野灘から東海沿岸を襲いました。また、2 年後の 1946 年（昭和 21 年）にはマグニチュード 8.0 の昭和南海地震が発生しました。

四日市地域では、全半壊の建物 1,263 戸、死者 22 人の被害が記録されています。

出典：四日市市史



当時世界一を誇った石原産業株式会社四日市工場の大煙突は1/3 が倒壊した（写真提供：石原産業株式会社四日市工場）

すでに 70 年以上経過

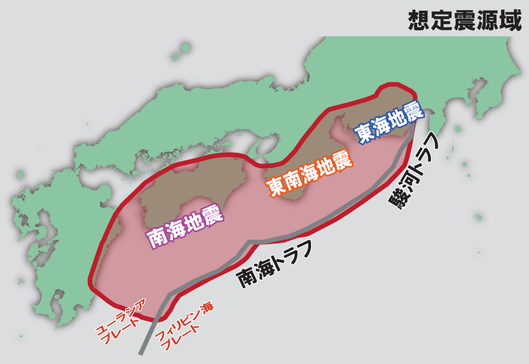
2014 年（平成 26 年）3 月に三重県が、南海トラフの地震について、過去に周期的に発生していて、地域で起こりうる津波と、東日本大震災を踏まえ、最新の科学的知見に基づいて発生しうる最大クラスの津波の、2 つの想定を公表しました。

約 100 ～ 150 年周期で発生する、歴史的に地域で起こり得ることが実証されている津波
過去最大クラスの南海トラフ地震

発生頻度は極めて低いが、理論上起こり得る最大クラスの津波
理論上最大クラスの南海トラフ地震

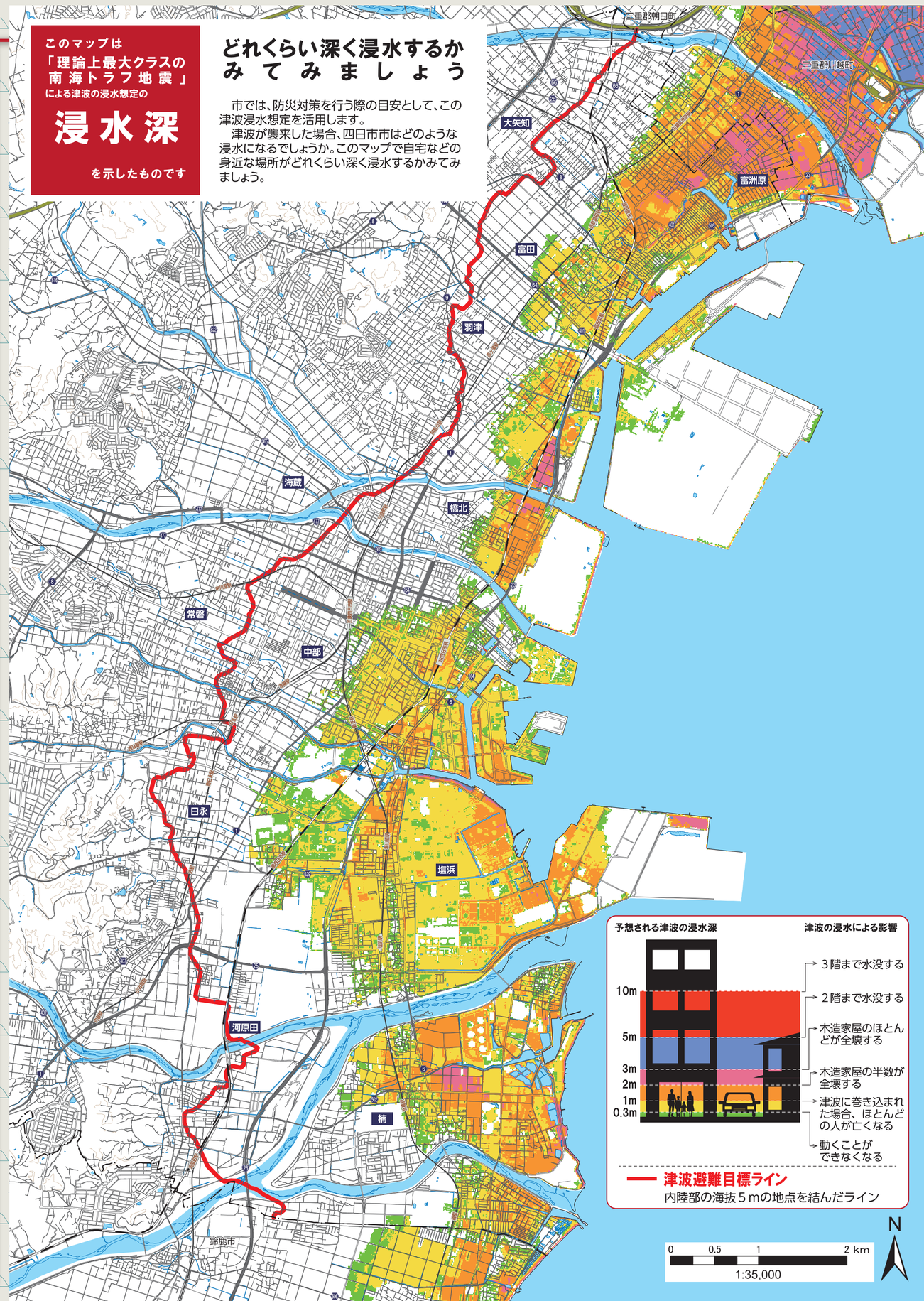
津波避難マップでは、 理論上最大クラスの南海トラフ地震を想定した浸水深と到達時間を掲載しています。

想定震源域



このマップは「理論上最大クラスの南海トラフ地震」による津波の浸水想定の **浸水深** を示したものです

どれくらい深く浸水するかみてみましょう

市では、防災対策を行う際の目安として、この津波浸水想定を活用します。

津波が襲来した場合、四日市市はどのような浸水になるでしょうか。このマップで自宅などの身近な場所がどれくらい深く浸水するかみてみましょう。